

昭和62年度蚕品種比較試験

誌名	長野蚕試要報
ISSN	05471265
著者	金子, 博 若林, 秀忠 清水, 剛
巻/号	24号
掲載ページ	p. 11-15
発行年月	1988年4月

昭和62年度 蚕品種比較試験

金子 博*・若林秀忠*・清水 剛*

長野県に適した優良蚕品種の選定並びに飼育取扱いの資料を得るため、現在県下に普及している品種及び有望と思われる品種の中から数品種を選択し、蚕業試験場本場及び南信支場において、1～2齢人工飼料育・3～5齢桑葉育で共通試験を行い、その性状を比較調査したのでその結果を報告する。

この試験を実施するにあたり供試蚕種を提供していただいた育成者並びに繰糸調査をお願いした長野県繭検定所の各位に感謝の意を表する。

試 験 結 果

この試験は、蚕桑技術協力試験全国協定課題としておこなったものである。なお、成績は本支場の平均成績で示した。

1. 春 蚕 期

第1表 飼育場所及び飼育条件

試 験 場 所	掃立月日	飼 育 形 式			使用人工飼料名	上 簇 方 法
		1～2 齢	3 齢	4～5 齢		
本 場 (松 本)	5. 19	人工飼料育	平 飼 い	条 桑 育	モ ー ラ ス	条払い一斉上簇
南 信 支 場 (下伊那)	5. 15	〃	〃	〃	シルクメイト	〃

第2表 飼育調査成績

品 種 名	供試蚕種 製造場所	飼 育 日 数				毛振る い 率	1～3 齢 減蚕歩合	2 眠 蚕 体 重	3 齢 起蚕率	化 蛹 歩 合
		1～2 齢	3～4 齢	5 齢	全 齢					
春 嶺 × 鐘 月 (61年)	カネボウ	日 時 8. 04	日 時 9. 21	日 時 7. 22	日 時 25. 23	% 100	% 2.4	♀ 4.1	% 99	% 96.0
春 嶺 × 鐘 月	カネボウ	7. 22	9. 11	7. 05	24. 14	100	2.7	3.9	100	95.5
朝・日 × 東・海	品 研	7. 22	9. 11	7. 03	24. 12	100	1.4	4.6	100	94.3
N2・N4×W58・C2	〃	7. 22	9. 15	7. 09	24. 21	100	2.0	4.7	100	94.3
野・路 × 若・葉	長 野 県	7. 22	9. 11	7. 04	24. 13	100	1.6	4.3	100	95.4
5・1 × 6・1	農 水 省	7. 13	9. 12	7. 08	24. 09	100	1.8	4.0	100	96.0

* Kaneko Hiroshi、Wakabayashi Hidetada, Shimizu Tsuyoshi : 長野県蚕業試験場

第3表 収繭量及び繭質調査成績

品 種 名	収繭量	対 結 繭 蚕 歩 合		1 立 粒 数	繭 量	繭 層 重	繭 層 歩 合
		上 繭	玉 繭				
春嶺×鐘月(61年)	20.4 ^{kg}	98 [%]	1.0 [%]	62 ^粒	2.14 ^g	53.7 ^{cg}	25.2 [%]
春 嶺 × 鐘 月	19.6	97	0.7	66	2.08	54.7	26.3
朝・日×東・海	20.2	95	1.8	58	2.20	58.2	26.5
N2・N4×W58・C2	20.3	95	1.1	57	2.24	58.8	26.3
野・路×若・葉	19.8	96	1.0	56	2.14	55.1	25.7
5・1×6・1	19.5	97	0.3	69	2.07	53.3	25.7

第4表 繰糸調査成績

品 種 名	繭 糸 長	繭 糸 量	繭 糸 繊 度	解 舒 率	生 糸 歩 合	歩 掛	小 節
春嶺×鐘月(61年)	1,375 ^m	46.1 ^{cg}	3.06 ^d	81 [%]	21.66 [%]	86.1 [%]	95.8 ^点
春 嶺 × 鐘 月	1,439	46.6	2.96	74	22.38	85.1	95.2
朝・日×東・海	1,426	50.2	3.21	76	22.83	86.4	95.2
N2・N4×W58・C2	1,496	49.8	3.04	69	22.46	85.6	95.0
野・路×若・葉	1,361	47.4	3.17	79	22.25	86.1	95.1
5・1×6・1	1,315	45.2	3.14	77	21.83	84.8	95.4

本年の春蚕期は4月上旬の気温が高めで、桑の発芽・開葉は平年並であった。しかし、5月上旬の凍霜害と少雨の影響でその後の生育はやや遅れ、壮蚕用桑は軟弱気味であった。対照品種(春嶺×鐘月)の成績を前年と比較してみると、5齡飼育日数は5月下旬からの高温の影響もあって約1日短く、繭重、収繭量は劣った。しかし、繭糸長、生糸歩合は優った。

各供試蚕品種を対照品種との比較でみると、朝・日×東・海は化蛹歩合が劣り、収繭量、繭重、繭層重及び生糸歩合が優った。N2・N4×W58・C2は化蛹歩合及び解舒率がやや低かった。しかし他の調査項目では優れた成績を示した。野・路×若・葉は繭糸長がやや劣り、繭重、解舒率がやや優った。5・1×6・1は繭糸長、生糸歩合が劣り、解舒率がやや優った。

なお、N2・N4×W58・C2は本年度新たに指定蚕品種に登録され、精1号・日02号×選1号・中02号と命名された。

2. 初秋蚕期

第5表 飼育場所及び飼育条件

試 験 場 所	掃立月日	飼 育 形 式			使用人工飼料名	上 簇 方 法
		1~2 齡	3 齡	4~5 齡		
本 場 (松 本)	7. 10	人工飼料育	平 飼 い	条 桑 育	モ ー ラ ス	条払い一斉上簇
南 信 支 場 (下 伊 那)	7. 8	"	"	"	シルクメイト	"

第6表 飼育調査成績

品 種 名	供試蚕種 製造場所	飼 育 日 数				毛振る い 率	1~3 齡 減蚕歩合	2 眠 蚕 体 重	3 齡 起蚕率	化 蛹 歩 合
		1~2 齡	3~4 齡	5 齡	全 齡					
錦 秋 × 鐘 和 (61年)	カネボウ	日 時 7. 14	日 時 8. 20	日 時 5. 17	日 時 22. 03	% 100	% 4.2	g 4.3	% 97	% 95.0
錦 秋 × 鐘 和	カネボウ	7. 18	8. 23	6. 11	23. 04	100	4.3	3.9	98	94.1
芙・蓉 × 東・海	品 研	7. 16	9. 01	6. 11	23. 04	100	3.6	4.6	100	93.4
N2・Fb×W58・C2	"	7. 16	9. 01	6. 11	23. 04	100	3.1	4.8	100	93.3
日137号×支146号	農 水 省	7. 04	8. 21	6. 01	22. 02	100	2.2	4.3	100	95.7

第7表 収繭量及び繭質調査成績

品 種 名	収 繭 量	対 結 繭 蚕 歩 合		1 立 粒 数	繭 重	繭 層 重	繭 層 歩 合
		上 繭	玉 繭				
錦 秋 × 鐘 和 (61年)	kg 19.2	% 97	% 1.0	粒 70	g 2.01	cg 48.2	% 24.0
錦 秋 × 鐘 和	19.1	97	0.2	66	2.06	50.0	24.3
芙・蓉 × 東・海	20.6	95	1.8	59	2.25	53.9	24.0
N2・Fb×W58・C2	19.8	94	2.8	61	2.22	54.0	24.3
日137号×支146号	19.7	97	0.7	67	2.09	49.1	23.5

第8表 繰糸調査成績

品 種 名	繭 糸 長	繭 糸 量	繭 糸 繊 度	解 舒 率	生 糸 歩 合	歩 掛	小 節
錦 秋 × 鐘 和 (61年)	m 1,401	cg 42.1	d 2.75	% 75	% 20.95	% 87.3	点 95.3
錦 秋 × 鐘 和	1,419	43.6	2.81	74	21.19	87.2	94.9
芙・蓉 × 東・海	1,465	46.7	2.92	72	20.58	85.6	95.2
N2・Fb×W58・C2	1,464	46.4	2.90	71	20.83	85.9	95.1
日137号×支146号	1,394	42.7	2.80	83	20.33	86.3	95.4

初秋蚕期は4～5齢になって降水量がほとんどなく、気温の高い日が続いたが、桑の生育は順調で良桑が得られた。

対照品種（錦秋×鐘和）の成績を前年と比較してみると、5齢飼育日数は約1日長く、繭重、繭層重、生糸歩合はやや優ったが、他の計量形質には差がなかった。

各供試蚕品種を対照品種との比較でみると、芙・蓉×東・海及びN2・Fb×W58・C2は化蛹歩合と生糸歩合がやや劣り、収繭量、繭重及び繭層重が優った。日137号×支146号は生糸歩合が劣り、化蛹歩合、収繭量及び解舒率が優った。

3. 晩秋蚕期

第9表 飼育場所及び飼育条件

試験場所	掃立月日	飼育形式			使用人工飼料名	上簇方法
		1～2齢	3齢	4～5齢		
本場（松本）	8. 30	人工飼料育	平飼い	条桑育	モーラス	条払い一斉上簇
南信支場（下伊那）	8. 25	〃	〃	〃	シルクメイト	〃

第10表 飼育調査成績

品 種 名	供試蚕種 製造場所	飼育日数				毛振る い 率 %	1～3齢 減蚕歩合 %	2眠蚕 体 重 g	3 齢 起蚕率 %	化 蛹 歩 合 %
		1～2齢	3～4齢	5 齢	全 齢					
		日 時	日 時	日 時	日 時					
錦秋×鐘和(61年)	カネボウ	7. 22	9. 00	6. 14	23. 12	100	2.5	4.2	99	96.0
錦秋×鐘和	カネボウ	7. 15	8. 18	6. 15	23. 00	100	1.2	3.8	98	95.4
豊年×研白	品 研	7. 15	9. 05	6. 14	23. 10	100	0.9	4.2	100	94.4
芙・蓉×東・海	〃	7. 12	8. 21	6. 15	23. 00	100	2.5	4.4	100	94.9
N2・Fb×W58・C2	〃	7. 12	8. 21	6. 16	23. 01	100	2.6	4.4	100	94.7
紫・雲×旭・陽	長野県	7. 15	9. 05	6. 15	23. 11	100	2.6	4.0	99	95.1
日137号×支146号	農水省	7. 05	9. 02	6. 16	22. 23	100	2.1	4.1	100	96.5

第11表 収繭量及び繭質調査成績

品 種 名	収繭量	対結繭蚕歩合		1立粒数	繭 重	繭層重	繭層歩合
		上 繭	玉 繭				
	kg	%	%	粒	g	cg	%
錦秋×鐘和(61年)	20.3	97	1.0	66	2.08	49.4	23.9
錦秋×鐘和	18.5	97	0.2	68	1.98	47.9	24.2
豊年×研白	19.0	97	0.2	61	2.02	49.4	24.5
芙・蓉×東・海	19.8	96	1.1	59	2.13	51.3	24.1
N2・Fb×W58・C2	19.7	95	1.2	59	2.13	52.7	24.7
紫・雲×旭・陽	17.9	97	0.2	64	1.92	45.8	23.9
日137号×支146号	19.9	98	1.3	64	2.07	49.3	23.8

第12表 繭糸調査成績

品 種 名	繭糸長 ^m	繭糸量 ^g	繭糸繊度 ^d	解 舒 率 [%]	生糸歩合 [%]	歩 掛 [%]	小 節 ^点
錦秋×鐘和(61年)	1,383	42.9	2.83	76	20.64	86.6	95.4
錦 秋 × 鐘 和	1,294	40.8	2.89	81	20.77	85.7	95.1
豊 年 × 研 白	1,302	42.0	2.95	82	20.61	84.3	94.9
芙・蓉 × 東・海	1,316	43.8	3.05	78	20.47	84.8	94.8
N2・Fb×W58・C2	1,380	45.2	2.99	78	21.18	85.6	94.7
紫・雲 × 旭・陽	1,209	39.1	2.95	83	20.46	86.0	94.6
日137号×支146号	1,291	42.5	3.01	85	20.28	85.2	95.3

晩秋蚕期は7月下旬からの少雨、高温傾向が9月中旬頃まで続いた。このため、本場(松本)の壮蚕用桑は硬化が早く、やや粗硬であった。

対照品種(錦秋×鐘和)の成績を前年と比較してみると、解舒率、生糸歩合はやや優ったが、他の計量形質は劣った。

各供試蚕品種を対照品種との比較でみると、豊年×研白は収繭量はやや優ったほかは他の計量形質に大きな差がなかった。芙・蓉×東・海は収繭量、繭重及び繭層重が優った。N2・Fb×W58・C2は収繭量、繭重、繭層重及び繭糸長が優った。紫・雲×旭・陽は化蛹歩合、解舒率がほぼ同じであったが、他の計量形質は劣った。日137号×支146号は生糸歩合がやや劣り、収繭量、繭重及び繭層重が優った。

なお、初・晩秋蚕期のN2・Fb×W58・C2は通年用品種として蚕品種研究所で育成・改良中の品種である。